

- 新型コロナウイルス感染症の対応等、各学校（小・中・高・大学等）の状況を効率的かつ迅速に把握することが求められている。
- 学校現場や教育委員会から、調査結果の自動集約や即時的な可視化・分析や利活用のニーズが高い。



- そこで、文部科学省が学校等を対象とした業務調査において、クラウド上で回答することによる調査集計の迅速化、統合作業の削減による教育委員会等の負担軽減にも資するシステム（文部科学省WEB調査システム「EduSurvey（エデュサーベイ）」）を開発。
- 令和4年度においては約30の調査を試行、令和5年度は約100の調査を実施予定。（概算要求中）

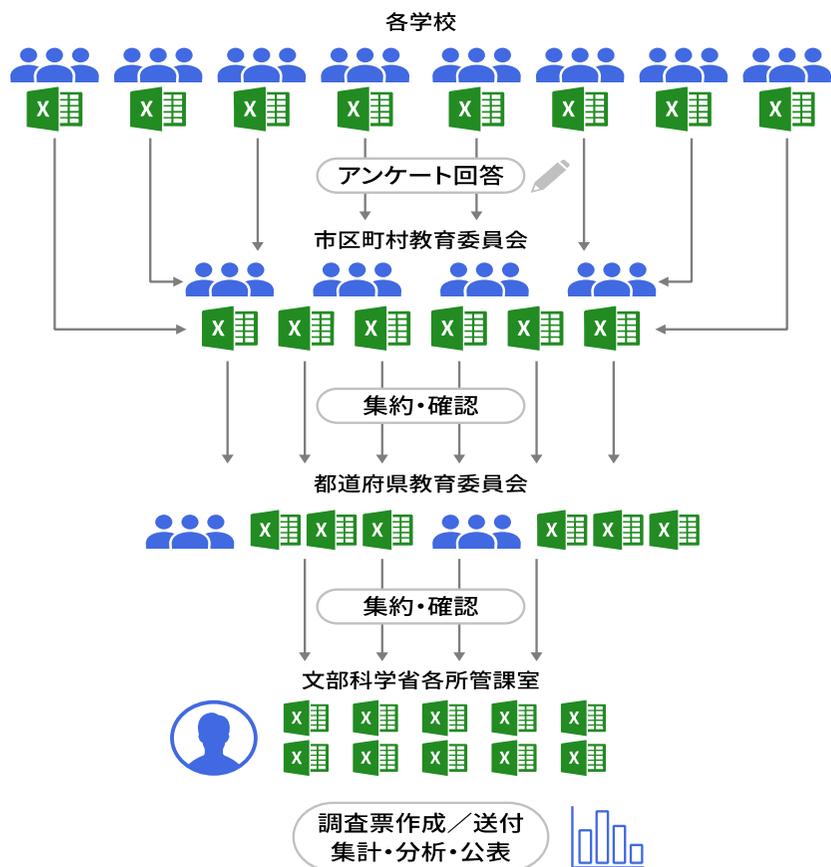
## 現在、EduSurveyを使って実施済・実施中の主な調査（令和4年10月現在：21調査が活用）

- ・ R4 副教材配布冊数等調査
- ・ ウクライナから日本に避難した子供の学校への受入状況について
- ・ 専門職大学院の今年度入学定員等について
- ・ 新学期における公立学校臨時休業状況調査
- ・ 令和4年度夜間中学等に関する実態調査
- ・ バス送迎に当たっての安全管理に関する緊急点検

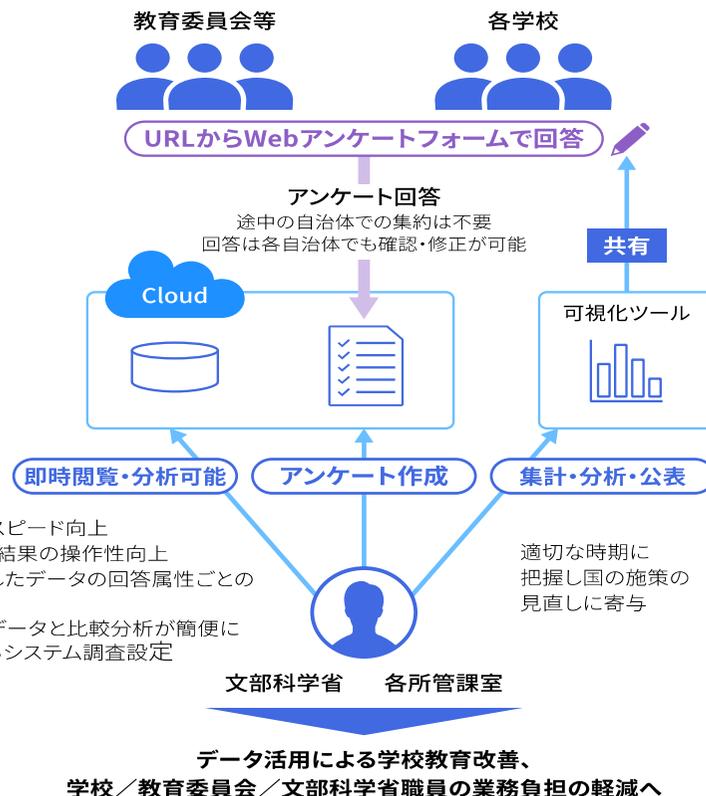
幼稚園～高校まで、  
計5万校を対象とする  
大規模調査も実施

# 「文部科学省WEB調査システム」(EduSurvey) について

**導入前** 例: アンケート調査フローイメージ(初等中等教育段階の場合)



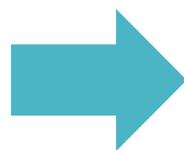
**導入後** ツール導入後のアンケート調査フローイメージ(初等中等教育段階の場合)  
Cloud上に回答を保存することで、各自治体の集約の手間を省き、  
文部科学省側でも回答を即時に把握できる



学校から提出された複数のエクセルを統合するのが大変。ミスも起きやすい...



都道府県から提出されたエクセルをもとに、独自に集計や分析の手間が発生。



学校の回答が直接届くので、教育委員会での統合の手間が削減。



学校が回答したら即時に結果の確認が可能。可視化ツールで集計や分析が簡単に！

# 「文部科学省WEB調査システム」(EduSurvey)の分析イメージ

## アンケート回答と分析イメージ ※あくまでもイメージであり、下記データはそれぞれ関連していません

### (1) 接続回線種別

学校が教育用(校務用を除く)に利用している主たる接続回線について、回答してください。

※「3=光ファイバー接続(学校から直接民間プロバイダへ接続)」とは、ベストエフォート型光ファイバー接続サービスにより学校から直接接続するものをいう。

※「4=光ファイバー接続(学校から教育センター等経由で帯域を保证して接続)」とは、帯域保証型の光ファイバー接続サービスにより、各学校と教育センター等とのネットワークが構築されているものをいう。(一部帯域保証の場合や帯域保証型でVPN等を利用している場合を含む。)

※「5=光ファイバー接続(学校から教育センター等経由で帯域を保证せずに接続)」とは、ベストエフォート型の光ファイバー接続サービスとともに、VPN等の仮想化技術を用いて通信回線を暗号化することによって、各学校と教育センター等とのネットワークが構築されているものをいう。

リストから回答の選択肢を選択

7.光ファイバー接続(3.を主たる接続回線として利用し、5を併用)

### (2) 接続回線速度(理論上の下り最大値を下記より選択)

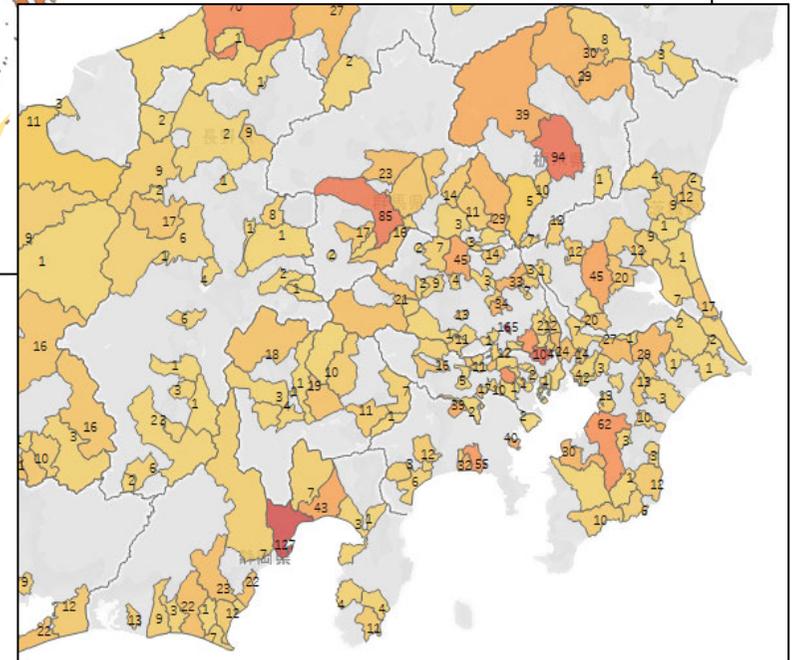
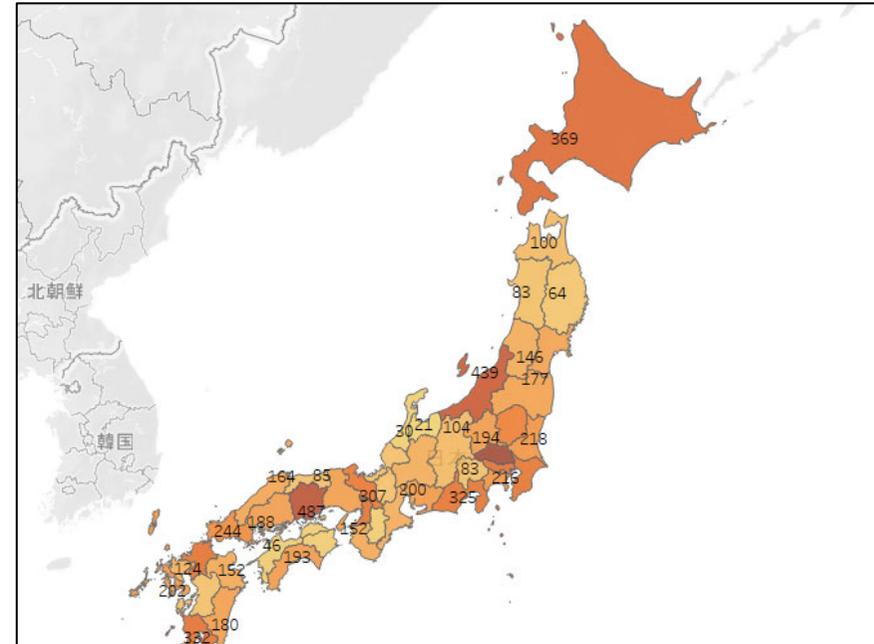
( (1) の回答が10,11,12及び15以外の場合、回答すること。)

リストから回答の選択肢を選択

1つ選択

1つ選択

- 1.=1Mbps未満
- 2.=1Mbps以上~30Mbps未満
- 3.=30Mbps以上~100Mbps未満
- 4.=100Mbps~1Gbps未満
- 5.=1Gbps以上



アンケート結果をクラウドのデータ分析ツールを活用し、様々なグラフ形式で見える化。

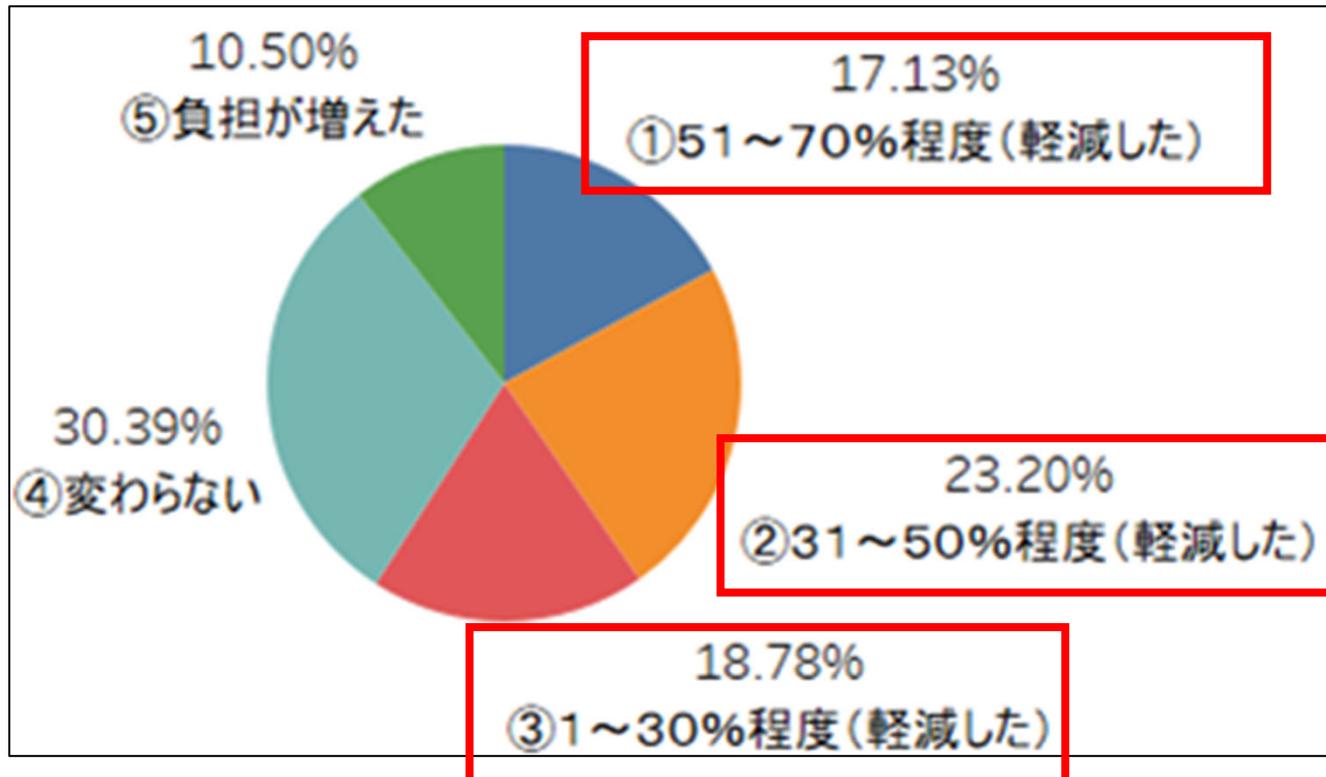
# EduSurveyを活用した効果（教育委員会の声①）

## EduSurvey使用感についての調査結果

- ✓ 調査対象：各教育委員会等のとりまとめ部局担当者  
※本システムを初めて実証した者を対象

Q これまでのアンケート調査と比べて、本システムを利用したことにより業務負担がどの程度軽減されましたか？

A



- ✓ 業務負担軽減の効果：**約6割**が負担軽減を実感

※一般的に新システム導入時には操作方法に不慣れなため負担増と認識されやすい傾向にある中の結果であることに留意。  
※⑤「負担が増えた」の結果については最初のアカウント登録が影響したと考えられるが、一度登録すれば再度の負担はない。

## EduSurvey使用感についての調査結果

- ✓ 調査対象：各教育委員会等のとりまとめ部局担当者  
※本システムを初めて実証した者を対象

### ● 調査フローが簡略化した

- 学校が直接入力することで、とりまとめの作業が省け、学校の回答状況の把握もたくさんのExcelファイルを確認する必要がなく容易になった。
- 従来の「様式を送付」→「様式を回収」→「集計」→「提出」がなくなっただけでもかなりの負担軽減になっていると感じる。また、以前の調査で使用していたExcelなどでは、関数がうまく動作しないなどのトラブルが散見されていたのが、このシステムではそのようなトラブルがなくなった。
- 県として集計作業が軽減されたことが大きいことに加え、所管の市町村教育委員会の作業も考えると非常に助かった。

### ● 回答方法が簡便だった

- 調査回答画面に行きつくまでが簡単である。このシステムによる調査方法は、IDやパスワードの設定やそれを記憶しておく必要もなく、URLをクリックした後、組織名を選択するだけで学校コードを入力する必要もないため手間がかからない。また、回答の必要がない問いが表示されずわかりやすい。

### ● 問い合わせや連絡調整が減少した

- 学校がWEB上で直接回答したがトラブルや不具合等なく、スムーズに回答でき今まで教育委員会に多くあった問合せなどがほとんどなかった。
- Excelファイルの入力方法などを説明する必要もなく、市教委からの学校への調査依頼がスムーズになった。
- システム上で学校の回答を確認する作業となり、以前に比べて各学校とデータのやりとりをする回数が減った。

## EduSurveyを使用した文部科学省担当課の声



### ● 調査の負担が軽減された

- システム上での管理や集約等の便利な機能が実装されており、作業が効率化された。
- これまでの作業の流れに大きな変更はないが、確認する側の作業量は大幅な削減となった。

### ● 集計のミスが減少した

- 従来の調査方式で頻繁に起きていたExcelのバージョン管理の手間が削減された結果、ミスが低減した。

### ● 調査の迅速性が上がった

- 学校が回答した瞬間に回答内容を確認できたり、コードに紐付いて回答が上書きされたりするので、最新の回答を即座に確認できる。

### ● 簡単に操作できた

- UI（User Interface）が分かりやすく、マニュアルがなくても直感的に操作できた。